

平成30年度  
(2018年度)

## 「空の日」

中学生海外主要空港派遣事業

7/23(月) ~ 7/28(土)

Seattle・Phoenix・Los Angeles

= 研修レポート =



「空の日」・「空の旬間」実行委員会

事務局： 一般財団法人日本航空協会  
事業委嘱・編纂： 公益財団法人JAL財団

## 1. はじめに

「空の日」・「空の旬間」実行委員会では、「空の日」(9月20日)記念事業の一環として、次世代を担う中学生を海外主要空港へ派遣し、空港や航空関連施設の見学を通じて、空港と航空への関心と理解を深めてもらい、視野の広い若者へと育成することを目的として、1990年度(平成6年度)より“中学生派遣事業”を実施しています。これまでに426名の皆さんが参加されるにいたっておりますが、25回目の実施となった今年度は6名の代表中学生を、アメリカのシアトル、フェニックス、ロサンゼルスへ派遣しました。

この研修レポートは、その皆さんが研修終了後に書かれた作文を中心に取り纏めたものです。空港の主要な施設、ボーイング社工場、運航乗員訓練所、運航乗務員・客室乗務員の仕事を見学することにより空や空港について考え、また、現地の学生と国際交流の素晴らしさを体験したことが、参加された皆さんの国際的な視野と将来の夢を広げる一助となっていれば幸いです。

なお、今年度の事業が所期の成果を挙げ、無事に終了できましたことは、ひとえに企画、そして受入に全力を傾けてくださった関係各位のご協力、ご支援の賜物です。

成田国際空港(株)の皆様、(株)JALグランドサービスの皆様、ボーイング社エバレット工場の皆様、カミアックハイスクールの皆様、ロサンゼルス空港の機内食工場の皆様、JALフェニックス運航乗員訓練所、ANA、JALの各シアトル・ロサンゼルス支店、両社の各運航・客室乗務員の皆様、ボーイング社・機内食工場の見学をご手配くださったJALの皆様はこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2018年度「空の日」記念事業の一環として作成されたこの研修レポートが、皆さまの今後の事業推進におけるご参考となれば幸甚です。

## 2. 7月23日(月)～7月28日(土) 旅程 一覧

7/23 (月)		13:30 14:00	成田空港にて研修開始式、 成田空港施設見学
	東京(成田)発	18:15	NH(全日空)178便にてシアトルへ 機内で客室乗務員の話聞く
	シアトル着	11:25	
			市内見学(パイクプレイスマーケット～スペースニードル) シアトル泊
7/24 (火)			ボーイング社エバレット工場見学 現地学生と一緒に航空博物館見学と昼食懇親会
	シアトル発	17:47	AA(アメリカン航空)2197便にてフェニックスへ
	フェニックス着	20:47	フェニックス泊
7/25 (水)		09:00 ～	JAL フェニックス乗員訓練所見学
			セドナ見学 フェニックス泊
7/26 (木)	フェニックス発	08:35	AA(アメリカン航空)1702便にてロサンゼルスへ
	ロサンゼルス着	10:29	到着後、機内食工場見学 昼食:JAL ビジネスクラス機内食
			ユニバーサルスタジオ見学 ロサンゼルス泊
7/27 (金)		08:30 11:15 ～	研修の振り返り JL061便の乗務員と対面 ロサンゼルス空港施設見学
	ロサンゼルス発	13:45	JL(日本航空)061便にて東京(成田)へ 機内で客室乗務員の話聞く 機内泊
	東京(成田)着		台風により関空経由 到着後、解散式
xx:xx			

### 3. 研修写真

第 1 日 目 7 月 23 日 (月)

7/23 (月)		13:30	成田空港にて研修開始式、
		14:15	成田空港施設見学
	東京(成田)発	18:15	NH(全日空)178 便にてシアトルへ 機内で客室乗務員の話聞く
	シアトル着	11:25	着
			市内見学(パイクプレイスマーケット、スペースニードル等)
			シアトル泊

#### ◆成田空港にて研修開始



#### ◆成田空港施設見学 成田国際空港(株)・(株)JAL グランドサービスの皆さんの案内 B787 機見学 ランプコントロールタワー見学

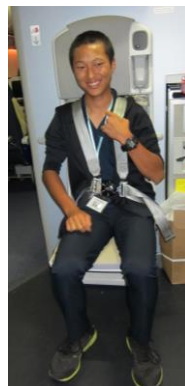


花時計にて



◆乗務員の仕事をを知る

NH178 便にてシアトルへ(所要時間:9 時間)



◆シアトル空港到着  
ANA 支店、NH178 便 乗務員の皆さんと一緒に。



◆シアトル市内見学  
スペースニードル



ガムウォール



レーニア山 (Mount Rainier) 標高 4392 メートル



第 2 日 目 7 月 24 日 (火)

7/24 (火)			ボーイング社エバレット工場見学 現地カミアック高校の皆さんと一緒に航空博物館見 学と昼食懇親会
	シアトル発	17:47	AA(アメリカン航空)2197 便にてフェニックスへ
	フェニックス着	20:47	フェニックス泊

◆ ボーイング社エバレット工場見学



日本に飛び立つ寸前の新しい JAL 機



◆現地学生(Kamiak High School)との交流

お揃いの T シャツで記念撮影



Kamiak 訪問



第 3 日 目 7 月 25 日 (水)

7/25 (水)	09:00 ～	JAL フェニックス運航乗員訓練所見学
		セドナ見学

フェニックス泊

◆JAL フェニックス運航乗員訓練所見学

訓練機の操縦席体験



シミュレーター体験 JAL 教官の皆さんと。



◆セドナ見学



ジャンプ!



第 4 日 目 7 月 26 日 (木)

7/26 (木)	フェニックス発	08:35	AA(アメリカン航空)1702 便にてロサンゼルスへ
	ロサンゼルス着	10:29	到着後、機内食工場見学 昼食:JAL ビジネスクラスの機内食を試食
			ユニバーサルスタジオ見学  ロサンゼルス泊

◆ロサンゼルス空港到着後、機内食工場“フライングフードグループ”見学



厳重な衛生装備で見学



昼:JAL ビジネスクラスの食事を試食





◆ユニバーサルスタジオ見学



第 5 日 目 7 月 27 日 (金)

7/27 (金)		08:30	研修の振り返り
		11:15	JAL 乗務員と対面 ロサンゼルス空港施設見学
	ロサンゼルス発	13:45	(日本航空)JL061 便にて東京(成田)へ 機内で客室乗務員の話聞く  機内泊



研修振り返り

リトルトーキョー散策



◆ロサンゼルス空港研修



JAL 支店、JL061 便 運航乗務員の皆さんと一緒に。



◆乗務員の仕事をを知る





第 6 日 目 7 月 28 日 (土)

◆ JL061 便 成田到着



## 4. 研修レポート

### 「世界に飛び出す第一歩」

山武市立蓮沼中学校 秋葉 耕佑

今回、「空の日」の海外主要空港派遣事業に参加し、世界に飛び出す第一歩を踏むことができて、とても嬉しかったです。

僕は小さい頃、「空の日」のイベントに家族で参加したことがありました。でも、全然覚えていません。また、小学校低学年で成田空港見学もしましたが、この時のことも記憶に余りないです。空港、海外など自分にとって



では手の届かない場所と思っていたからでしょうか。しかし、僕自身、小学4年生の時から英語を習い始めると、洋楽に興味がでてきました。僕が英語の勉強している姿を見て、親からは海外などもっと世界に飛び出しても大丈夫と言われてはいました。そこで、今回の研修の話をいただき、うれしかったです。運命的にこの研修に参加した同年代の男女6名で協力しながら、研修の目的を達成出来るよう頑張りました。

研修初日の成田国際空港見学をするにあたり、研修場所の指定された駐車場に行くまで車で3周も回ってしまい、たどりつくまで大変でした。空港は、とても広く迷路のように感じました。空港内に入ったらボタン一つで自分の行きたい所に案内してくれるサービスがあったら良いなと思いました。警備員や空港で働いている人に道も聞きました。とても親切に教えていただきました。また、安全性を考えて警察官もいて、安心できる所だと感じました。一般の人が入れない空港内や飛行機の整備施設の見学はとても貴重な体験でした。飛行機の発着時は大音量がして、この音が出ない飛行機ができれば騒音問題も解決でき、近隣の住民が助かるだろうなと思いました。飛行機に搭乗し離陸の際は滑走路をすごい勢いで走り、ジェットコースターの様で面白かったです。機内はとても快適でドリンクサービスや機内食、そして映画鑑賞もできる、何て充実した空間なんだろうと思いました。沢山の人がいるのに個室の様な感じがしました。シアトルに着くまでの約9時間は寝る暇もなくあっという間に感じました。長い時間、退屈させない工夫、これぞまさしく「おもてなし」だと感じました。日本や外国の空港には色々な人種の方達がいて、飛行機は国と国を繋ぐ橋渡しの役目をしていると思います。飛行機があるおかげで、国内や海外の色々な商品を購入できたり、その

場所でしか見る事の出来ない景色を見たり、体験をしたりと飛行機の必要性を感じました。

研修中にいろいろな工場を見学しましたが、すべて機械中心で製造されていると思っていました。しかし、ロサンゼルスでの機内食工場ではすべて人の手作りで、心を込めて作っていました。食器類は一度洗浄後に人の目で汚れていないか確認をしていました。とても驚き、また温かみを感じました。どんなに機械化が進んでも人間の目、人間の手は必要不可欠です。飛行機を作る際には、いろいろな部品を外国で製造した物を一つにまとめあげ、沢山の人の手を通して作り上げる様子を見学しました。飛行機そのものが「一つの世界」という感じがします。

この研修で、人と接する際に大切なことを学びました。学校では、生徒会副会長をやっているので人との接する機会は多いです。懇親会で現地の高校生とジェスチャーを交えて、たどたどしい英語でコミュニケーションを図りました。多分、気持ちは伝わったと思いますが、自分の思いを伝える難しさを再度、認識しました。機長は仕事の中で一番緊張する時は、トラブルがあった際に離陸地点を変更するアナウンスをする



ときで、搭乗しているお客様の予定を変更してしまうためだからだそうです。乗客の安全第一を考え、今後の予定までも心配している配慮はすごいと思いました。今回、帰国の便が台風の影響で着陸地が変更となりましたが、聞き取りやすい速さのアナウンスで安心感も伝わりました。また、CA はいつも笑顔でいる事を心掛けていて、お客様に不快な思いをさせないように注意しているそうです。僕は人前で話す時は緊張

し、ついつい早口になってしまう時があります。機長のように冷静に物事を判断し、CAのように笑顔で、聞き取りやすい速さで分かりやすく話せるようにしたいです。

今後の学校生活では、今回の経験を活かして人と人の繋がりを大切にし、協力し合い、生徒会役員として蓮沼中学校をよりよい学校にしていきたいです。外国は日本より治安が悪く危ないのではと思っていましたが、みんな明るく、そんな感じはしませんでした。将来は外国で仕事をしてみたい気持ちになりました。今回、経験した事を周りの人に伝え、僕のように空港や外国について興味を持ってくれる人が増えるといいなと思います。2年後には、東京オリンピックが開催されるので、いろいろな国の方と触れ合うのがとても楽しみです。

## 「一生の宝物」

河内町立かわち学園 8年 飯塚 空

6日間の海外派遣事業の初日、私は緊張と興奮でいっぱいでした。果たして自分の英語は伝わるのか、しっかりアメリカの文化を学ぶことができるのか、5人の仲間と上手くやっていけるのだろうか、など不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、最終日には

「もっと一緒にいたい、もっとアメリカで研修したい」という気持ちでした。



1日目、研修開始式が終わってすぐ、家族と一緒に成田空港施設見学をしました。JAL グランドサービスの皆さんの案内で旧コントロールタワーや、制限区域の中、格納庫でのボーイング機見学など、とても貴重な経験をさせていただきました。全日空「NH178 便」での機内研修では、CAさんのエプロンやスカーフなどを試着させていただき、離発着時に使う椅子に座らせて頂きました。まるでCAさんになった気分でした。CAの皆さんが明るく丁寧に接して下さったおかげで緊張もほぐれ、とてもリラックスして研修に参加することができました。シアトルの空港では外に出るためにシャトルトレインに乗りました。ホームと列車の間隔が広く日本より乗りづらさを感じました。まずシアトルに着いて専用車で色々な所を観光しました。スペースニードルからの眺めは最高でした。特にマウントレーニア(マウントレーニアコーヒーのモデルの山)を見ることができ嬉しかったです。シアトルにはAMAZONやスターバックスなどの本社がありました。夕食の前にスーパーに行きました。コーヒー豆やお菓子が計量式で売っていたりレジの商品を置く台がベルトコンベアのようになっていたり文化の違いを感じました。

2日目のボーイング社エバレット工場では、とても厳重な設備の中で見学をしました。中にはたくさんの航空機があり、その迫りに圧倒されました。塗装する工場とエバレット工場が離れていて、塗装し終わった飛行機は道路の上を走ってエバレット工場に行くことを聞きとても驚きました。最後に、日本にもうすぐ飛び立つボーイング787機の中を見学させていただきました。ビジネスクラスの客席に座ったり、コックピットの中に入ることができて感激しました。午後はカミアックハイスクールの生徒と一緒にピザを食べながら昼食懇親会をしました。初めは緊張してなかなか話すことができず不安でしたが、だんだんと打ち解け、楽しく話す事が出来ました。カミアックの生徒の皆さんは日本語が上手でびっくりしました。学校見学では、日本の高校と違い、室内プールがある所や体育館にステージが無い所などがありました。夜にアメリカン航空でフェニッ

クスに移動しました。アメリカン航空のCAさんには、年配の方や男性の方も数人いました。アメリカには定年制度がないと言うことにとっても驚きました。同時に私はCAさんという女性の仕事というイメージが強く、男性のCAさんがいることにも驚きました。

3日目は、JALの訓練所に行きシミュレーター体験をしました。本当に訓練生が使用しているものでした。機長さん達が丁寧に詳しく教えて下さったので、とても良い経験になりました。次に外へ行き、訓練機に試乗させていただきました。コックピットは、普段なら絶対に座ることができないので、とても感動しました。セドナに行く道中、昼食でハンバーガーを食べました。ノーマルのハンバーガーはパティが2枚入っていたのに驚きました。ジュースカップはレギュラーサイズを頼んだのに、日本のラーجサイズの大きさで、とてもびっくりしました。セドナはとても暑かったのですが、山々がたくさん連なっていて絶景でした。セドナはディズニーランドにあるビックサンダーマウンテンのモデルだそうです。とても迫力がありました。特に断崖絶壁の所に教会があったのが印象的です。セドナはパワースポットだったので、とても元気をもらいました。

4日目は、朝早くにアメリカン航空でロサンゼルスに移動し、機内食工場の見学に行きました。全て英語での説明だったので少し戸惑いましたが、とても楽しかったです。私はこれまで工場見学に行ったことが無かったので、全てが新鮮でした。特に野菜と果物を保管してある部屋は、冷蔵庫のように寒くて中で働いている人達は皆厚手のコートと長靴をはいていたのが印象的でした。お昼はビジネスクラスの機内食を試食しました。私はメインをステーキにしました。とても食べやすい量だったので食事の量についてシェフに質問をしたところ、それぞれの行き先の国の食文化に合わせて量や味付けなどを変えていると言っていました。航空機を利用するお客様への思いやりを感じました。工場内には手を洗う機械があり、髪が長い人は全て帽子の中にしまい、髭の生えている男性は髭の部分全てを覆っていました。とても衛生面に気を使っているなと思いました。楽しみにしていたユニバーサルスタジオでは、スタジオツアーのバスに乗りました。知っている映画の撮影所を見ることができ、とてもワクワクしました。この6日間で一番濃い一日になりました。



5日目の朝、ホテルの周りのリトルトーキョーを見学しました。私の宿泊したホテルの周りにはアジア系の人達が沢山住んでいて、ホテルの売店の店員さんも日本人の方でびっくりしました。リトルトーキョーには、至る所に漢字やひらがながあり、なんだか嬉しくなりました。ロサンゼルス空港ではCAさんと機長さんを外で出待ちをして、一緒に写真を撮りました。その時に機長さんが帽子をかぶせてくれてびっくりしました。ロサンゼルス空港の施設案内では成田空港との違いを学ぶこ

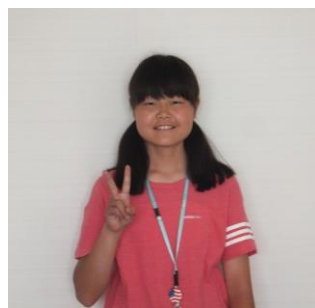
とができました。帰りの JAL の機内では、機長さんと直接話をさせていただいたり、とても貴重な経験が出来ました。CA さん体験ではスカーフやエプロンなどを試着させていただき、実際にカートを押させていただきました。カートは意外と重かったです。私は、揺れる飛行機の中で重いカートを押して接客している CA さんを尊敬しました。

帰りは台風の影響で成田空港に着陸できず、一時的に関西空港へ行くなどのトラブルがありました。それを含め一生に残る大切な思い出となりました。リーダーの浜崎さん、上野さん、糸川さん、このプロジェクトに携わって頂いた全ての皆さん、私を快く研修に送り出してくれた家族、本当にありがとうございました。そしてこの研修が無ければ出会うことのなかった最高の 5 人の仲間。この出会いに感謝します。本当にありがとう。

### 「職業への誇りと、人との繋がり of 素晴らしさを実感した旅」

横芝光町立光中学校 大木 美澄

私は、「空の日」中学生海外主要空港派遣事業に参加させていただくにあたって、二つの目標を立てました。一つは、「飛行機、航空等の運営をするためには、どれだけの人が携わっていて、どのような工夫や苦労があるのかを学んでくる」ということです。これまで一度も空の旅を経験したことのない私にとって、空港の施設・設備の利用や飛行機への搭乗、そこで働く方々の様子など



は未知の世界とも言えました。そしてもう一つの目標は、「日本とは異なるアメリカの文化を感じながら、積極的に人と関わられるようになる」ということです。私は人見知りで、人とのコミュニケーションが苦手です。しかし、事前研修会での説明を受け、本当にこの研修旅行ではたくさんの方々にお世話になるのだということを改めて感じ、感謝の気持ちを相手にしっかりと伝えられるような挨拶、返事ができるよう努力しようと思いました。

出発の日、ワクワクして胸が高鳴りました。成田空港の施設設備を見学し、間近で見る滑走路や飛行機の整備場は想像以上にスケールが大きく、圧倒されました。また、それとは相反する緻密な安全対策など、多くの分野の担当が協力し合うことにより空港が運営されていることも知りました。その後は飛行機に乗り込み、いよいよ出発です。

行きと帰りの機内研修では、客室乗務員さんに仕事の内容について説明していた

できました。美しい立ち居振る舞い、にこやかな表情、お客様一人ひとりと目を合わせ穏やかに接するその姿からは想像し難いですが、思った以上に体力も必要な仕事だということ学びました。機内食の入った台車を押したり、機内アナウンスの体験をしたりして、客室乗務員さんの苦労や細やかな心遣いを身にしみて感じました。様々な努力を重ねて提供されるサービスを実際に受けたときは、本当に気持ちがよく、機内では終始快適に過ごすことができました。また、機長さんからもお話をいただき、とても心に響き印象に残ったのは、「諦めずに努力し続ければ、きっと夢は叶う。絶対、大丈夫！」という言葉です。機長さん自身が高校生の時、英語の成績に伸び悩んだそうですが、人一倍努力を重ねて操縦士の試験に合格することができたそうです。この言葉を聞いて、うまくいかないことがあっても、諦めず何度でも挑戦していこうと思いました。

フェニックス JAL 乗員訓練所では、飛行機の仕組みやパイロットの訓練方法について学びました。その後の施設見学では、パイロットを目指す生徒さんが訓練をする小型の飛行機に乗らせていただきました。フェニックスは気温が50℃近くまで上がってしまうので、外での操縦訓練はとても過酷で危険な中で行っているのだと知りました。苦労しながらも毎日訓練に励む訓練生さんや教官の方はすごいと思いました。シミュレーター体験では、実際に訓練で使われているシミュレーターを使わせていただき、本当に自分が飛行機を操縦しているかのような感覚を味わうことができました。単純な操作なのだろうと思っていましたが、いざやってみるとかなり難しく、とても緊張しました。シミュレーションでありながら、空港に着陸できたときの達成感と安堵感は今までに無いものでした。実際に何百人もの乗客を乗せて責任を持って飛行機を操縦する緊張感は、きっと計り知れないものであると感じました。そして、操縦士さんに、卒業試験受験者の合格率を質問すると、「前回の試験を受けた人は3000人、合格者は60



人だったよ。」とのことでした。ですから、合格率はたった2%ということになります。とても驚きました。それほど厳しい世界なのに3000人も人が試験に立ち向かっているのです。厳しい世界だからこそ、教官と訓練生の信頼関係、チームワークが大切で、日々コミュニケーション力を磨いているのだと教えていただきました。

ロサンゼルスでの機内食工場見学では、料理長さんが施設や業務の説明をして下さいました。全て英語での説明でしたが、理解しようと懸命に聴きました。嘔吐や下痢などの症状がないことを確認する証明書を書いたり、調理場に入る前に機械に手を入れて自動洗浄をするなど、衛生管理が徹底されていました。広い冷凍室の中で二

時間も働く従業員さんもいて、とても体力を必要とする仕事です。私たちが数分間冷凍室に入らせていただきましたが、寒くてとても二時間は入っていただけないと感じました。徹底された衛生管理、そして過酷な環境で働いて下さる人がいるからこそ、私たちは安全で且つおいしい機内食を食べることができるのだと知りました。そして、試食させていただいたビジネスクラスの機内食は、食べたことの無い料理や、初めて見る食材がたくさんあり、興味深いものばかりでとても美味しかったです。

他にも、いろいろな場所を見学しました。シアトルのパイクプレイスマーケット、スペースニードルは、賑やかな雰囲気アメリカに来たことを実感しました。ボーイング社エバレット工場見学では、その日の午後日本へ初めて飛び立つという、完成したばかりの飛行機の中に入れていただきました。操縦席のボタンの数があまりにも多くて圧倒されました。カミアック高校の生徒の皆さんとの交流では、英語で自己紹介をしました。あまり上手く話せませんでした。最後まで一生懸命聴いてもらえて嬉しかったです。セドナツアーでは、ガイドさんに案内していただき、パワースポットを巡りました。雄大な大自然からパワーをもらい豊かな気分になりました。ユニバーサルスタジオでは、まるでハリウッド映画の世界に入り込んだような感覚で、ツアーやアトラクションを存分に楽しむことができました。ハリウッドの映画にはあまり興味がなかったのですが、これを機に見てみたいと思うようになりました。

この研修旅行では「飛行機、航空等の運営について学ぶ」ことを目標の一つとしていました。航空関係の様々な施設を見学したことにより、これまでは全くの無知であった空港設備のこと、乗務の職や飛行機の製造、機内食の提供など、最先端の見聞を広めることができました。そして、どの仕事をする人にも共通していたことがあります。それは「自分の仕事に誇りと責任を持ち、飛行機を利用するお客様のために、日々努力を重ねている」ということです。お客様のために、と思う気持ちが、こんなにも努力することの原動力になるのかと心を打たれました。そして、もう一つの目標としていた「積極的に人と関われるようになる」ことについては、施設見学などでの質問を自ら積極的に手を挙げてするよう努力しました。さらに、同行して下さったスタッフの浜崎さん、糸川さん、上野さんから、とても大切なことだと何度もアドバイスしていただいた「目を見て、大きな声で」を意識した挨拶ができるよう努力しました。各訪問先で迎え入れて下さった方々の温かさ、同行スタッフの皆さんの励ましにより、今までは苦手ではできなかったことが克服できました。これからも、相手の目を見て積極的に人と関わることができるよう努力しようと思います。そして、一緒に研修に参加し経験を共にした耕佑さん、空さん、誠賢さん、夏海さん、太陽さん。五人の仲間と楽しく学べたことは、一生の糧と思い出になることと確信しています。

終わりに、この研修旅行において、本当にたくさんの方々にお世話になり、多くの

貴重な体験をさせていただきましたことを、心から感謝しております。ありがとうございました。今後は、日本だけでなく広く世界に目を向けながら、様々な出会いを大切に、自分の立場に誇りと責任を持って歩んでいけるよう努力いたします。

## 「自分の目指す道が見えた海外派遣」

富里市立富里北中学校 齋藤 誠賢

私にとって、空港そして飛行機は、両親が空港で働いていることもあり、とても身近に感じていました。小さい頃から、何度も飛行機で旅をし、時には、父の仕事でもある飛行機の整備作業を見学し、いつからか自分も空港で働きたいという夢をもつようになりました。そんな夢をずっと抱き続けていた中、今回の「空の日」派遣事業のお話をいただき、自分にとって、海外の空港や航空関連の仕事を見学できることや、現地の方々との触れあいにより英語力を試すことができるのは、夢の実現に向けた大切な一歩になると思い、大きな期待を胸に出発の日を迎えました。



今回の研修で自分が目標としていたことは、「航空に関する様々な職業に触れ、夢に近づく道を考えること」そして、「アメリカの文化を学び、ネイティブのような英語が話せるようにすること」でした。あらためて5日間の研修を振り返ると、航空関連の内容以外にも、日常生活や食生活等での日本の文化との違いに驚き、たくさんの新しい発見がある有意義なものでした。

たくさんの研修の中で、一番印象に残ったのは、3日目のフェニックスのJAL乗員訓練所です。最初に、パイロットになるために必要なことや、パイロットになるためには、パイロットの専門学校へ行き、多くを学ばなければならないということを教えてもらいました。飛行機の操縦の仕方だけではなく、操縦室内にあるたくさんの計器についても覚えなければならないし、なにより英語はもっと勉強をしなければならないと感じました。専門学校卒業後は、1年間の実施訓練をして試験を受けることなど、自分が考えていた以上にパイロットへの道のりは厳しいと思いました。しかし、たくさんの人の命を預かる職業だからこそ、厳しいのは当たり前なんだと思います。プレゼンテーションの後、シミュレーターを使った飛行体験をさせてもらいました。実際に飛行機を操縦し、空を飛んでいる感覚があり、とても緊張しました。シミュレーターとはいえ、思った以上に難しく、特に着陸は、無風なのに滑走路の真ん中に合わせる事がなかなかできず、

また、衝撃が大きくなるように慎重に調整することが、とても難しかったです。その後は、訓練生の飛行の様子を見学したのですが、本物のパイロットのように離着陸をし、タッチアンドゴーもしていて、近くで見学できて感動しました。このような訓練を日々重ねることが、飛行機を利用する私達に安心・快適を与えてくれているのだと思いました。

そして、今回の研修では、私達が快適な空の旅を楽しんでいるその裏には、たくさんの方々の方があることを、改めて感じることができました。CAの方々には、常に笑顔絶やさず、楽しい会話で私達をハッピーな気持ちにさせてくれました。当たり前のように食べていた機内食も、衛生面を徹底管理されている工場で作られ、運んでくれる人がいます。整備の仕事では、故障や事故などのトラブルが起きないように、たくさんの方が細かいところまで丁寧に点検・整備をし、空の安全を守ってくれています。また、飛行機を製造するには、いろいろな国と協力をして作っていることなど、私達は本当にたくさんの人たちのおかげで、空の旅を楽しむことができているのだと思うと、感謝の気持ちとともに、自分も働く側の人間になりたいという思いが強くなりました。

大きな期待を胸に出発の日を迎えた7月23日。正直なことを言えば、不安な気持ちがありました。「自分の英語は通じるだろうか・・・?」「自分の将来に向けて、何かを得ることができるだろうか・・・?」

研修を終えた今、はっきりと言えること、それは『私は、パイロットになりたい!』ということ。

中学生になってから、パイロットと管制官で迷っていたのですが、機長さん達の話の聞いたり、訓練所を見学したりする中で、パイロットになりたいという思いが強くなりました。今回の研修は、自分の目指すべき道、自分の気持ちを確認できたとても有意義な5日間でした。



最後に、糸川さん・浜崎さん・上野さんにサポートをしていただき、5名の仲間と過ごしたこの研修会。様々な場所を見学・体験し、たくさんの方々と接し、多くを学ぶことができた5日間。私達の気づかないところでも、たくさんの方の力をお借りしてこの研修ができたのだと思っています。本当にありがとうございました。研修で得たたくさんの方のことを、これからの生活に生かし、将来の夢の実現に向けて努力をしていきたいです。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

## 「安全と快適」

栄町立栄中学校 満仲夏海

空港や航空は、『安全第一』で『快適』である事が求められます。

まず、研修前の私の空港や航空についてのイメージは、空港についてはとても広く、きれいというイメージを持っていました。航空については、航空会社も航空の役割もよくわかっていませんでした。ですので、今回実際に色々な空港や航空会社を見たり研修を受けたりして、感じたり考えたりしたことがあります。



私が一番印象に残っているのは、やはり帰りの飛行機での出来事です。その日はちょうど成田国際空港付近に台風が接近しており、千歳空港に降りるかもしれないと搭乗する前に言われていました。その台風の影響で離陸時刻も予定より遅れ、私の周りにいたお客さんも、不安そうに今の状況を CA さんに何度も聞いていました。その時 CA さんは、お客さんの不安を煽らないように、淡々と質問に答えて安心させていました。私はとても感心しました。CA さんだって不安なはずなのに、お客さん第一に考えて臨機応変に対応する姿は、さすがはプロだなと思いました。また、機内研修の際には機長さん自ら質問に応じてくださいました。そこで、千歳空港ではなく関西国際空港に降りるかもしれないとのことでした。なぜなら、燃料の関係で、千歳空港より関西国際空港に降りたほうが良いと判断したからです。こうした予定とは違う事が起きた場合、心掛けるのはアナウンスでお客さんを安心させることだそうです。実際に、アナウンスを多く行い、今の状況を細かく伝えていました。そして、関西国際空港に着陸しました。一時間エンジン回復をしてから成田国際空港に再出発です。その間、電話の使用許可、ドリンクサービス、そして CA さんが、お客さん一人一人の体調を細かく丁寧に聞いていました。それから二時間程で、無事に成田国際空港に到着しました。私は飛行機に乗っている間、全然不安にはなりませんでした。それは、機内研修の際に機長さんが、大事にしている事は有言実行で、自分で言ったことや思ったことは絶対にやり遂げたいとおっしゃり、安全を大切にしていることが分かったからです。また、フェニックス JAL 乗員訓練所で、機長さんが教官となりパイロットを育成していたりしたところを見せて頂いたからだと思います。特に訓練所で機長さんが直接教えているというのは、実体験も交えて教えることが出来て非常に良いと思いました。色々な研修を通して、乗務員やパイロット、整備士など、航空会社の皆さんが一丸となって安全を

徹底しているという事が分かりました。『安全』は、空港でも航空でも、一番大切だと思いました。

しかし、安全面だけを重視してしまっても、お客さんは喜んでくれないと思います。そこで、『快適』という面についても考えてみました。私は空港の中に入って最初に、「空港、広っ！どこ行けばいいのか分からない．．．」と思いました。私は空港に行ったことがあまり無く、言わば素人です。そんな素人の立場から申しますと、空港はいつも利用している人に便利な造りになっていると思います。なぜなら、どこに行けば良いのか分からない時に、どこでそれを聞いたら良いかも分からないからです。そこで、私はどうすればそのような事態を少なく出来るかを考えました。そして思いついたのは、【グリーンロード作成】です。どのようなものかと言うと、まず空港の各入口から案内掲示板までグリーンロードを作ります。それでも分からない人の為に、次はインフォメーションセンター(案内所)までグリーンロードを作ります。インフォメーションセンターについても思ったことがあります。インフォメーションセンターがどこにあるかは分かっても、複数あってどこに行けば良いのか分からないということがありました。その改善点としては、何か分からない事がある人は、とりあえずここに行け！という所を作ってみてはいかがでしょうか。また、グリーンロードの途中に、緑色の服を着た人を立たせるようにするのも良いと思います。そうすれば、迷ってしまう人が少しでも減ると思います。また、空港に来て何をすべきか分からない人に対し、手順のプリントをインフォメーションセンターに置いたらもっと良いと思います。次に、機内研修で教わった事前打ち合わせの内容についても『快適』だと思った事があります。乗務員の方々はお客さんが搭乗する前に事前打ち合わせをします。その時に、日本語・英語で通じないお客さんがいたら、そのお客さんの国の言語が話せるCAさんを搭乗させるそうです。また、有名人が搭乗する場合には裏口と呼ばれるところから入れて、混乱を防ぐとのことでした。こういった一つ一つの心遣いが、お客さんが『快適』に過ごせる秘訣なのだと思います。また、機内食にも種類が一種類ではなく、何種類かあるところに工夫を感じました。しかし、『快適』に感じられなかった事がありました。アメリカン航空の、荷物の手続きの際、荷物の数が何らかの手違いで人数分より多くなってしまった時の事です。その時、荷物の手続きをやってくれた方は「この機械が悪いのよ。この機械使わない方がいいわね。」と、悪びれる様子もなく言いました。何でこの人は謝らないのかを不思議に思っていると、引率して下さった浜崎さんが「日本の航空会社は、ミスをしたら謝って責任を取るような指導だけど、外国の航空会社は、ミスをしたら自分の責任ではないとするような指導なのよ。」と教えて下さいました。私は



その話を聞いて、各国の航空会社の指導方針があるのはいいが、やはりミスをしたら謝り、最後まで責任を取って欲しいと思いました。そこが改善されれば、お客さんが喜ぶ空港や航空が増え、『快適』も増えるのではないのでしょうか。

私は今回の研修で、『安全第一』である事が重要であり、さらに『快適』であればもっと良いことが分かりました。しかし、学んだ事はそれだけではありません。今回の研修では、本当に沢山の仕事を見させていただきました。そこでは、様々な仕事の方が『やりがい』を感じて働いていました。その方々は、『やりがい』について話している時とても楽しそうで、表情も輝いていました。将来、どんなことをしているかはまだ分かりませんが、どんな仕事でも自分なりに『やりがい』を感じて働きたいと、強く思いました。そして、もう一つ学んだ事があります。それは、『目をきちんと見て挨拶をする。』ということです。これは浜崎さんから教わりました。目を見ているつもりでも、相手に伝わらないと意味がないことを実感しました。今さらの事かもしれませんが、私も相手にきちんと伝わるように目を見て、気持ちの良い挨拶が出来る人になりたいです。

## 「国際化の意味」

神崎町立神崎中学校 吉野 太陽

今回の研修に参加できることが決まった時、僕の中では期待がとても大きく、アメリカに行く事が出来ると思うと本当にわくわくしました。しかし、その一方で、不安もありました。今まで、学んでいた英語が通じるのか、海外の人とコミュニケーションがとれるのか……。期待と不安が入り混じる中、あつという間に出発の日は訪れました。

今回の研修で印象に残ったことが大きく3つありました。

1つ目は、シアトルでの現地の中学生との交流会です。年齢が僕たちとあまり変わらないにも関わらず、日本に興味を持っている人が多く、英語と日本語でどんどん話しかけてくれました。僕たちが6人に対して相手は20人くらいいたのですが、日本の文化や生活の様子について、いろいろと尋ねられました。僕は消極的だったので、なかなか英語で答える事が出来ず、現地の中学生の積極性を見習いたいと思いました。積極的にコミュニケーションをとれば、お互いのことをもっとよく知ることができ、もっと深く分かり合えると感じました。

また、パイクプレイスマーケットで見たお店では、魚を売っていたのですが、日本とは違い、魚を投げるパフォーマンスをしていました。そういった部分でもアメリカという



国民の積極的な部分を見ることができ、感心しました。

2つ目は、フェニックスでの体験です。ここでは、訓練機の操縦の体験をさせてもらいました。自分が操縦した通りにモニターが動くので、本当に自分で操縦している感覚になりました。本当のパイロットは、もっと大きな機体を、たくさんの乗客を乗せた状態で操縦すると思うと、とてもすごいと思いました。

その後、動物や赤ん坊を抱いているお母さんのように見える岩がある場所を案内してもらいました。そこで、奥に進むと教会のような場所があり、その中の祭壇にはイエス・キリストが大きな十字架に磔にされている姿があり、本当に驚きました。日本では、キリスト教というとクリスマスを祝うことくらいしか思いつかなかったもので、他の国の文化を知るうえで宗教のことなども学ぶことは、大切なのだと思いました。

3つ目はロサンゼルスでの体験です。ここでは機内食を作る工場を見学することができました。衛生面では、髪の毛が入らないように注意を払っていましたが、職場の雰囲気は明るく楽しそうでした。それから、ビジネスクラスの機内食を試食させてもらいました。ステーキが出ていたので驚きました。飛行機の中で、こんな高級な料理を食べることが出来るなんて！その料理は、とても美味しくいただきました。きっと、旅をする人たちが少しでもリラックスできるよう心を込めて作っているのだろうな、と感じました。

その日はユニバーサルスタジオにも行きました。日本にはない大掛かりで、派手なアトラクションがあり、バスに乗って色々な映画のシーンの中に入り込むことができました。急に水をかけられたり、キングコングがティラノサウルスと戦ったりしていて、とても面白かったです。日本よりも迫力がありました。

今回の研修は、国際化について考えるいい機会となりました。アメリカ人は会う人会う人みんな積極的で、僕ももっと見習いたいと思いました。自分の気持ちを相手に伝えたいと思うことで、英語の勉強にもっと真剣に取り組めるし、言葉の上達も早いと思います。そして、お互い話が出来たら、相手の国の事や文化も学べるし、自分の国の事や文化を伝える事も出来ます。こういう、人と人の交流が、国と国の交流に繋がっていくのかなと思いました。アメリカ以外にもたくさんの国があって、英語以外の言葉を話す人もたくさんいます。これからも、そういう言葉の違いを超えて、たくさんの国の事を学び、広い世界を見てみたいと思います。

また、アメリカの人たちと接したことで、自分の住んでいる国、日本の良さを改めて知ることもできました。今後2020年には、日本で東京オリンピックが開催されるので、海外の人たちに日本の文化や伝統などを積極的に伝えていけたらいいなと思います。



このような貴重な経験をする機会を与えていただけたことに、とても感謝しています。成田空港やアメリカの空港のみなさん、現地で交流してくれた中学生、一緒に行った近隣の中学校の友達、学校の先生方、いつも支えてくれる家族や同級生・・・本当にありがとうございました。これからの毎日の生活に今回の経験を活かして行きたいと思います。

国際化とは、積極的にお互いをよく知り、わかりあえることなのではないかと感じました。国や宗教、人種に関係なく、前向きに明るく接していきたいと思います。

## 5. 編集後記 引率者より メッセージ

### ◆ 成田国際空港(株) 糸川 良太

『空の日ファミリー』の皆さん、お元気ですか。研修では、日本から出国し航空の世界を研修され、海外の風土、文化など日本との違いを感じ、とても内容の濃い6日間となったことでしょう。

研修前の事前学習において、それぞれが学習し、想像を膨らませた研修先はどのように感じられたでしょうか。研修期間中に体験したことを家族や友人等に伝え、研修を振り返っていることと推察いたします。

本研修の参加にあたり、個々に動機や目的があり、「やってみよう」という前向きな気持ちで研修に参加されたと思います。

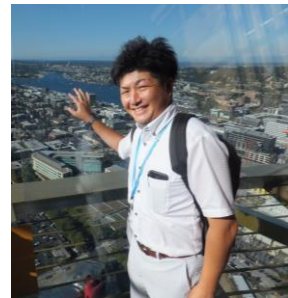
普段は見ることのできない場所での貴重な体験や現場で働く方々の話を聞くことができ、今回得た知識や経験が、将来を考えるうえでの大きなヒントになったのではないのでしょうか。

今回研修に参加されたように、前向きな気持ちで積極的に行動することで世界が広がるとともに、様々なことを体験し得られる知識や経験、人との出会いが皆さんの財産となるでしょう。

ぜひ、今後もいろいろなことに積極的にチャレンジしてください。

皆さんは、成田空港周辺市町の各学校から参加され、初めて会い研修を共にする仲間と6日間を過ごすことに対し、個々に大きな期待と少しの不安を抱えながら研修初日を迎えられることと思います。

研修初日、出発式の挨拶で、『空の日ファミリー』として、仲良く研修してきます。」と宣言し研修がスタートし、研修初日こそ緊張や不安もありお互いにぎこちない時間も



ありましたが、同じ空間・時間を過ごすにつれて、学校や共通の話題で打ち解ける様子が見られ、アメリカへ着く頃には笑顔でコミュニケーションをとっているところが印象的でした。

研修を通じ、出会った『空の日ファミリー』のこのご縁も皆さんにとって大きな財産の一つになったのではないのでしょうか。研修のみに留まることなく今後もお互いに情報共有いただければ嬉しく思います。

研修では、皆さんが普段見上げている空を航空機が安全に運行し、空港や機内では旅客の皆さんが安全かつ快適に過ごすことができるよう世界中から多くの方々が携わり、不断の努力により成り立っていることがより深く理解できたのではないのでしょうか。航空に携わる仕事の一部ではありますが、世界中の方々が自らの仕事に誇りを持ち、その方々が協力し、幾多のプロジェクトを成し遂げるため、日々精進し真剣に仕事に取り組んでいるところを間近で感じることができました。

今回研修させていただいた航空関係会社スタッフの仕事の取り組みや航空機の製造工程をはじめ、機内食の管理方法、様々な技術習得までの過程、アメリカの国内線、空港施設など現地で多くのことを学び、新たな発見や驚きもありました。また、アメリカの食文化、風土等も研修を通じて、日本との違いを感じられたと思います。

この貴重な体験を財産として、将来において無限の可能性のある皆さんには、研修に参加させていただいたご両親やご家族をはじめ、本研修に携わった多くの関係者の皆さまへの感謝を忘れることなく、将来を見据え、前向きな気持ちを持って、積極的に行動するとともに、仲間を思いやり協力できる人間になってほしいと思います。皆さんの今後、益々の活躍に期待いたします！

最後に、本研修にご尽力賜りました関係機関・関係者も皆さま、ご参加いただきました生徒のご両親・ご家族の皆さまに対し、この場をお借りし感謝ならびに御礼申し上げます。ありがとうございました。



## ◆（公財）JAL財団 添乗員 上野 友子

★お世話になりました皆さま、そして空の日の仲間の皆さんへ

日本出発前から出発当日、そして現地にて多岐に渡り、本当にたくさんの各関係機関の皆さまに大変お世話になりました。6日間の研修内容とは思えないほどの盛りだくさんの実りある、研修内容でありましたこと、ここにご報告させて頂き感謝致します。研修に参加した生徒の皆さんが、帰国時は出発前に比べたくさんの笑顔でしっかりと挨拶ができ、6人の仲間の絆が深まったことから6日間の研修が充実していたことの証だと思っております。



空の日の仲間の皆さん、お元気ですか？帰国後、学校の先生やお友達、ご家族の方々に研修中に体験したことや見てきたこと、感じたことなどたくさんお話ができたのでしょうか？出発前に掲げた皆さんの目標の一つでもありましたね。きっと皆さんの報告をして頂いていることと思います。

そしてこの6日間の研修で、皆さん6人が時にはお互い助け合い、色々なことが話し合える仲間へと日に日に絆が深まったのではないかと皆さんの様子を拝見して感じました。とても嬉しく思います。学校のクラスの仲間、クラブ活動での仲間、そしてこれからは高校生になり、また仲間が増え、社会人になっても同期や職場での様々な場面で、たくさんの仲間の人々に出会っていくことと思います。今回出会った貴重な6人はもちろん、国境を越え、言葉の壁を越えてこれから出会うたくさんの方々にもまた会いたいと思われる、この人となら一緒に仕事をしたいと思われる人になってほしいと思います。そして、将来はまだ未知な部分もたくさんあると思いますが、将来の夢や希望に繋がる何かがこの研修で発見できたとしたらとても嬉しく思います。皆さんお元気で。6日間ありがとうございました。

## ◆（公財）JAL財団 リーダー 浜崎 明美

皆さん、こんにちは。元気で学校生活を過ごされていることと思います。「空の日」の研修に、ほんとうに行ったのかな？と昔のころのようにと思っていないですか。

航空業界で働いている者でさえ行きたくてもなかなか訪問することのできない貴重な場所でたくさんのことを学べたことは、非常に幸運なことです。学校の授業を越えて、航空業界のあらゆる仕事を学び、海外で仕事をし、生活している方々のお話を直接聞くことができた経験は、自分の世界を大きく広げたことと

思います。毎日、早朝から行動開始というハードスケジュールでしたが、皆さん、生き生き元気に楽しそうに過ごしてくださいましたね。きらきら輝いていた6日間のこの研修レポートを時々開いて、あの時の自分を振り返ってみてください。また、新しい発見があるかもしれません。“今の夢”を越えた大きな世界で活躍する原動力になるものと確信しております。

“今”という時は一瞬で過去になりますが、“今”の積み重ねが私たちの将来です。先のことを考えると不安に思ってしまうことがあると思います。まさに初日の皆さんがそうでした。でも、心配はいりません。研修で皆さんが経験したように、自分を信頼し、信頼されていることを心に刻み、感謝の気持ちを忘れず、心を開いて、“今”を大切に充実した日々を積み重ねれば、心輝く将来に繋がります。

これまで参加した生徒たちの中で、夢を実現させ、航空業界に進んだ方々がいます。この報告は、「空の日」プロジェクトに関わる私たちにとって、大変嬉しいことです。日常業務でお忙しい中、研修を引き受けてくださり、子どもたちの心に夢という灯をともし、最高の研修となるように特別にプログラムを組んで、細やかに丁寧に推進してくださった関係皆様のお陰と深く深く感謝申し上げます。

今回が私の担当する最後の研修となりました。関係各所の皆様と連絡を取り合いながら安全第一で研修内容を組み立て、生徒の皆さんを引率した研修の日々は私にとっても大切な宝となりました。無事に帰国し、生徒の皆さんをご両親にお引渡しできた時の安堵感は忘れることができません。現地で健康・安全第一にケアしてくださった上野さん、これからも「空の日」研修の添乗、よろしく願いいたします。

研修で出会ったすべての皆様に心からの感謝を込めて。

A.Hamazaki



